

蔡友梅の生涯と作品目録

矢野 賀子

Cai You Mei's Life Experiences and a List of His Works

Noriko YANO

Abstract

At the end of the 19th century and beginning of the 20th century, there were numerous news articles, editorials, and novels published in Beijing newspapers written in the Beijing dialect. These papers provide an abundance of research material for studying this dialect. The writer who used the Beijing dialect most artfully in his work was Cai You Mei. This paper will focus on the life experiences of Cai You Mei with a presentation of a list of his works that were published in the newspapers at that time.

Key Words

北京方言、清末民初白話小説、旗人文学、白話新聞

一、北京語語彙研究と蔡友梅

漢語語彙研究においては、清末民初の語彙研究が緊急の課題とされており、また文学においては、清末民初の満族文学あるいは旗人文学の研究も盛んになってきている。蔡友梅は、清末民初のジャーナリストであり、特に北京方言を用いて多くの小説を発表したことで知られ、旗人文学の代表的作家でもある¹⁾。本稿では、清末民初の北京語語彙研究のために、この1年にわたって資料収集をしてきた過程で、新たに発見した資料や蔡友梅の作品から、蔡友梅の経歴を考察するとともに、今後の清末民初の語彙、文学研究のために、蔡友梅の作品情報を整理しておきたい。

蔡友梅といえ、短篇小説『小額』の作者として著名であるが、『小額』が影印刊行(1968)された当時は、波多野太郎氏は「作者松友梅、あざなを齡という。本小説の徳洵の序によれば、松友梅は學問が深く、1907(光緒33)年、北京進化報社が創立されたとき、總務となり運営に当たったという記録の外、詳しい傳記は判らない」とし、「序文を書いた人の中には旗人もいるようだし、また處々に満州語を使っている点からして、八旗出身ではあるまいかとも想像を逞しくされる。」と旗人ではないかと推測しているが、その作者名や経歴について不明な点が多かった。その後、白維国氏の考察が『小額 社会小説』(1992)に収録され、その内容が、劉大先氏の「清末民初京旗小説引論」(2007)にそのまま引用されている。他の満族文学研究者の蔡友梅の経歴に関する記述もほぼ同じで、これまで生没年すら明らかになっていなかった²⁾が、今回の調査で明らかになった。

二、蔡友梅の筆名と生没年

『小額』の序で、波多野氏は、作者について「松君友梅」「友梅先生」とあることから、作者名

※ E-meil yano@ha.shotoku.ac.jp

は松友梅であろうとされた。また、『小額』が『進化報』に掲載され、蔡友梅が進化報社の創立に関わっていたことから、松友梅は蔡友梅であり、松友梅は筆名とされた。これははっきりした証拠がないものの、状況証拠から『小額』の作者の実名は蔡友梅であろうと考えたわけである。今回蔡友梅の作品を収集するにあたっては、この状況証拠を出発点に北京発行の白話新聞を中心に調査していった。

蔡友梅の作品を探すに当たっての手がかりは、筆名が「損公³⁾」であるということと、『京話日報』、『順天時報』、『益世報』の記者又は編集者であったこと、さらに特徴有る彼の文体である。彼の文体については、彼が小説『褲緞眼』の中で、北京方言を使わなくていい場面では必ず標準語を使うことにしているが、小説は文言より話し言葉で書く方がおもしろくなるし、やむを得ず北京方言を使わざるを得ない場合もある。しかし、読者は必ずしも北京人でない場合もあるため、「如今我想了一个法子，实在必得用土语的时候儿，费解的不用，太卑鄙的不用，有该注释的，咱们加括弧，您瞧好不好？」⁴⁾と、北京方言を使った場合は、括弧で意味を解説するので、それでいいだろうかと読者に提案している。したがって、蔡友梅の小説を探す場合は、北京方言が使われており、また括弧で注釈を施している文章を白話新聞の小説の中から探していった。『京話日報』、『順天時報』、『白話国強報』、最後に『益世報』を調べてゆき、北京『益世報⁵⁾』に、蔡友梅の生没年を示す文書を発見することとなった。

蔡友梅の生没年を示す文書とは、1921（中華民国10、以後民国と略す）年10月19日『北京益世報』第一面に掲載された訃報である。

白維国氏は、民国10年8月20日『餘墨』「朝鮮人も叫横」が「梅菟」の筆名で書かれ、民国10年9月24日の『餘墨』「參觀沈香床記」が「友梅」の筆名であることから、「梅菟」と「亦我」は蔡友梅の筆名であろうと考察されている。蔡友梅は1912（民国元）年ころから、新聞社の編集を担当するほか、いくつかの新聞に小説を連載するようになっており、演説やコラム（2、3回だが）は蔡友梅の名で、小説は「損公」の筆名で発表していた。北京『益世報』では、筆名が蔡友梅、蔡松齡の文章も見つかっている。コラム『益世餘譚』、『餘譚』は「梅菟」、小説は「亦我」の筆名を使っていた。そして、白維国氏の考察の正しかったことは、「本報啓事」と蔡友梅の訃報広告で証明された。

民国12年10月2日から16日まで、北京『益世報』の最終面に「本報啓事」として、「現因梅菟偶染時疫，所有餘墨及亦我之小説，暫行停刊，特此聲明。」と、「梅菟」が疫病にかかったため、コラム『餘墨』と「亦我」の小説はしばらく休むとの記事が18日まで掲載され、翌日19日に蔡友梅の訃報が掲載された。コラム『餘墨』は、10月2日から休載、21日から再開されているが、筆者名が変わっていた。「亦我」の名で連載されていた小説『美人首』は、奇しくも10月1日で完結しているが、全国図書館文献縮微複製中心（北京）出版の影印本『京話日報』（全12冊）の調査で、同時期に「損公」の筆名で小説『鬼社会』を連載していたことがわかった。影印本『京話日報』は、この時期は欠号が多く、民国10年の9月1日に『鬼社会』の第三葉、2日に第四葉、7日に第九葉を見つけたのみで、その全体を見ることはできなかったが、その後天津図書館に『鬼社会』の単行本が所蔵されていることがわかった。天津図書館の『鬼社会』は、新聞に連載されたものの単行本で、単行本の末尾には、「為這鬼社會小説的藍本，由損公編了二十八頁半，不料損公一病不起，此書沒有收場，不能裝訂成冊，已經印就的二十八頁，棄之可惜，由記者向鬼社會上推測，接續編演，以狗打架為結局，可謂之狗尾續貂，不足大雅一笑了。民國十年十一月二十四日，翼持續編（已完）。」との記載があり、「損公」は「二十八頁半」まで書いて病に倒れたことがわかる。

「二十八頁半」分の連載だと、十月初めまで『京話日報』に『鬼社会』を書き続けていたと考えられる。以上の考察から、「損公」、「梅菟」、「亦我」は蔡友梅の筆名であったといえる。

訃報広告から、松齡が名前で、友梅は号であることがわかった。蔡友梅は、『小額』の出版にあたり、作者を「友梅松齡編⁶⁾」としており、姓こそ記さなかったが、諱と号を記していたのである。訃報の内容は、次の通りである。

清封奉政大夫諱松齡，號友梅，蔡府君慟於民國十年十月十六日，即舊歷九月十六日戌時壽終正寢，距生於同治壬申年二月二十六日巳時，享得耆壽。不孝芬等親視含殮，即日遵禮成服。同治壬申の年は1872年に当たるため、享年49歳⁷⁾であった。

蔡友梅の筆名は、『小額』の作者としての松友梅のほか、最もよく知られているのは「損公」の筆名である⁸⁾。「損公」の筆名で発表した小説は、『新鮮滋味』27篇の外、『白話國強報』には少なくとも14篇、『順天時報』には22篇と最も多い。『順天時報』を調査した結果、『順天時報』では「損公」の外、「損」の筆名で3篇、「退化」の筆名で3篇、「老梅」の筆名で1篇を発表している。

「損」が「損公」であることは、作者を「損」とした読み切り小説『夢中赴會』（『順天時報』民国2年1月1日）の中で、「這首七言絕句是損公民國二年元旦偶吟，要說這個損公學問原不大，閱歷也不深，可是對於國家社會頗有熱心，毅力，投身社會已垂十年，各種公益事大半也都作過。無奈阻力橫生，風潮屢起，很遭了些個危險，幾乎沒把性命犧牲。好在他百折不回到，如今也沒退化。」（下線は筆者が付した）と述べていることから、「損」は「損公」と考えてよい。

「退化」については、元旦に掲載された『夢中赴宴』の中で、「損公」は「今なお退化していない」と述べた後、同年1月5日から「退化」を主人公に『二十世紀新現象』（作者名は損）という長編小説を掲載し始めていることから、「退化」が蔡友梅の筆名であろうと容易に想像できるが、『家庭魔鬼』（全62回）の1回目（民国3年9月22日）の筆名は「退化」であるのに、『家庭魔鬼』二回目（9月24日）以降はすべて「損公」となっていることから、「退化」も蔡友梅の筆名あるあることは明らかである。

「老梅」については、北京『益世報』で使った筆名「亦我」との関連で証明される。北京『益世報』の小説は、蔡友梅が担当しており、北京『益世報』に最初に発表した小説『高明遠⁹⁾』の筆名は「老梅」であるが、第2作目『張和尚』（作者名は「亦我」）の冒頭で、「高明遠倫理小説，敘了兩個月，昨天算是交卷。這擋子小説，與家庭倫理社會人心有極大的關係。」と述べており、この記事より「老梅」も蔡友梅の筆名であることは明らかである。北京『益世報』に発表された小説は全部で25篇あり、「老梅」が筆名の作品は1篇のみで、残りはすべて「亦我」の筆名である。

新聞四紙の調査を終えて、蔡友梅が使った筆名は、「損公」の他、「損」、「退化」、「老梅」、「梅菟」、「亦我」であったことが新たにわかった。現在までに収集した蔡友梅の著作は、小説が94篇、コラムは『益世餘譚』377篇、『餘談』55篇、『餘墨』141篇の計573篇、演説や社会見聞の記事が57篇となった。次にこれらの文章に散見するの蔡友梅のことばから彼の経歴をまとめていきたい。

三、蔡友梅の経歴（1872～1921年）

蔡友梅の経歴に関しては、文人の随筆や地方誌や新聞史の記載等のなかに十分な資料が見つからないため、他の研究者がしてきたように彼の著作の中にその資料を探るしか方法がない。蔡友梅は、その随筆や小説の中でも「記者は」と顔を出し、かつてこういう経験をしたとその経歴をしばしば述べている。『小世界』（一）では、「記者的小説好，可不敢自誇，永遠講敘實事。」（1918年4月3日『順天時報』）と、「自分の小説は事実に基づいて書いている」と強調している。また

小説で述べた内容がコラムにもほぼ同じ内容で掲載されており⁹⁾、小説や新聞のコラムで言及した経歴の内容は信用できると考えられる。以下に、北京『益世報』のコラム『益世餘譚』、『餘譚』、『餘墨』の文章を中心に、蔡友梅の経歴を整理する。

最初に白維国氏の考察による蔡友梅の経歴を次にまとめておく。

1. 幼少の頃は、父の山東省での任官に随行する。
2. 1907年北京で『進化報』を創刊する。
3. 帰綏（フフホト）で2～3年幕僚となる。
4. 辛亥革命後、豫、鄂、贛等の省で公債を取り扱った。
5. 1916年前後北京に帰り『小公報』の記者に、1919年から1922年まで『益世報』の記者となる。

白維国氏考察の経歴のうち、「1919年から1922年まで『益世報』の記者となる。」という部分を除いて、ほぼ間違いない。次にもう少し詳しい経歴を4つの時期に分けて整理しておく。

1. 幼少時代から庚子（1900年）以前（1872-1899年）

蔡綏臣を父として、同治壬申（1872）年、雍和宮東にある柏林寺近くの石頭橋で生まれる¹⁰⁾。幼少の頃について、「我雖不算個少爺，可也不能說是窮小子，一心竟想着入學中舉會進士點翰林。手裡有幾個富裕錢，時常告假逃學，同着幾個小荒唐鬼，不是吃喝就是走逛。」（『餘談』「三怕」1921（民国10）年1月21日）と、裕福な家のお坊ちゃんとまではいかないが、貧しい家の子というほどでもなかったとある。理想は、科挙に合格して官僚になりたいという当時の士大夫階級の子弟が抱く将来像と変わりないものであった。やんちゃな少年でもあったようだが、お小遣いでよく劇を見に行ったようである。劇に対する愛好は晩年まで変わらなかった。父親が山東省曹州府で官職に就いたため、随行して山東省に移り住む¹¹⁾。16歳のとき、科挙の地方試験を受けている。合格したのか不明であるが、「自分も秀才であるが」と小説の秀才である主人公をけなす場面があることから、秀才になったことは確かであるが、何年かはわからない。また、16歳のとき、中医学の勉強を始めた¹²⁾とも書いている。そして、1898年か99年に大学に入るまで、営務処の委員をしている¹³⁾。また、1906年から2年ほど、中学校の教師をし、校長をも勤めた¹⁴⁾とあり、いろいろな経歴を重ねている¹⁵⁾。

2. 『進化報』の創刊から民国元年以前（1907-1911年）

『北京报纸小史』には、「『进化报』，设于东单北大街，社长蔡友梅，编辑杨曼青、乐缓卿、李问山。体裁白话¹⁶⁾。」と東単北大街で、蔡友梅を社長として、白話の新聞『進化報』を創刊したとある。蔡友梅は、随筆や論説、小説の中で進化閱報社の運営に携わったことを述べており、警世小説『大興王』（亦我）では、丁未年間（1907年）に『進化報』を創刊したと言っている。その活動の様子は、「白睺報帶儉」（『餘墨』，1921（民国10）年9月10日）で詳しく述べている¹⁷⁾。進化閱報社の社員たちはみな諸費用を自分たちで出し、昼間は社内で有料で新聞の閲覧を許可し、夜は曜日を決めて講演を行い、人々の啓蒙に尽力した。一日の閲覧者数は百数十名にもなり、盛況であったようであるが、コラムの題名からもわかるように、新聞代を払わない者も多く、おまけに湯飲みなどの社内の備品や社員の持ち物が盗まれ、蔡友梅もオーバーを盗まれたと当時の「人民」の意識の低さを嘆く有様であった¹⁸⁾。また、蔡友梅も不用意に物品を購入して借財を増やすなど、ついに経費が続かなくなって進化閱報社を閉館せざるをえなくなった。蔡友梅は、林立した閱報社が次々と閉館していく中で「最後停辦的，就是進化閱報社¹⁹⁾」と『進化報』は最後まで頑張ったと胸を張っている。しかし、閉館で残された借財は、蔡友梅が責任を取って一人で返済するはめに

なった。

3. 『進化報』倒産から「十六七省官場當過油子」の時代（1907-1911年）

『進化報』の倒産で借財を抱えたためであろうか、蔡友梅は「記者於宣統末葉，任歸綏禁煙公所提調⁹³。」「記者從先在河工上，當過幾天差使⁹⁴」と、地方幕僚として「提調、庶務、會計、文牘」など、いろいろな役職を転々とし、その勤務地は16、7省に及んだ⁹⁵。

当時は、数年地方官として勤めればかなりの資産を蓄えて都へ帰れたようであるが、蔡友梅は、「対人平等」をモットーに、使用人にもたびたび祝儀をはずむなどしたため、歸綏（今のフフホト）から北京に戻ったときは、「剩了沒有五十塊」というあり様であった。当然部下からは慕われたようで、かつての部下が出世して北京の家にわざわざ尋ねてくれたと喜ぶ一方、自分も他の役人と同じように蓄財に励んでおれば、今頃は楽隠居だったのにと、皮肉を挟むのを忘れない⁹⁶。蔡友梅は四男三女と子供に恵まれ、時に子供のための出費が大変だとこぼしているが、叔父蔡君鄰と蔡友梅が中医であったため、一族の暮らしにはかなり余裕があったようである⁹⁷。

4. 新聞記者時代（1912-1921年）

蔡友梅は、こどもの頃から芝居好きで、1912年に愛好家2、30人ほどと「正俗振樂新劇社」を組織している⁹⁸。組織が大きくなりすぎ、経費がかかりすぎてすぐに立ちゆかなくなったようであるが、彼は人々の素養を高めるのに学校教育の必要性を説くとともに、伝統劇にも教育的効果があると期待していたようである。

民国になってからは、記者あるいは編集者として新聞に多くの小説、記事を発表し続ける。民国元（1912）年から『衛生報』の編集を担当する⁹⁹ほか、『順天時報』は1918年頃まで、『京話日報』は病に倒れるまで小説の連載を続けた。1917年からは北京『益世報』の編集が仕事の中心を占めるようになる¹⁰⁰。コラム『餘墨』（1921年4月22日）には「忙」と題して、忙しい毎日をつぎのように紹介している。

「就以現在說，每天就要忙死，現在擔任三个報館的小説、短評、餘墨，還有進化通信社的事情，星期一三四，下午還有模範講演，趙氏補習學校舉我當名譽社長，還兼着顧問，見天還看十幾個義務病，…六點鐘就得迸起來，（睡不了五小時覺）清早起來，先看幾個病，十點鐘動筆，先作小説，兩點鐘出門，看完了病到通信社，星期一三四下午還赴各處講演，十點歸家，十一點又動筆，找補作短評餘墨，一點睡覺…，日日如此，毫無休息。」朝は5時に起き、午前中に執筆した後、診療をし、新聞社をいくつか回り、夜帰宅した後夜中の1時頃までまた執筆をするという毎日であった。1日の執筆量は4、5千字にのぼっていたようである¹⁰¹。この頃、蔡友梅は東直門南小街から東に行った東頌年胡同31号に住んでおり、西城区玉皇閣にあった『益世報』社へも行かねばならず、人力車を使っても結構時間がかかったであろう¹⁰²。毎日相当に忙しかったことが容易に察せられる。

蔡友梅の記述等から、彼が編集に携わった新聞社は、『衛生報』、『京話日報』、『小公報』、北京『益世報』、『大西北日報』などであることがわかっている。

なお、蔡友梅が旗人であるかどうかについては、父親の官職や叔父の蔡繩格に関する資料などから調査中であるが、まだ十分な確証が得られていない。蔡友梅が旗人作家の代表とされているのは、『進化報』でしばしば旗人の生活改善などを問題に取り上げたことがその一因ではないかと思われる。さらに調査が必要である。

次に、これまでの調査で明らかになった蔡友梅の著作について、作品の所在場所等の情報を加えて整理しておきたい。

四、小説目録

1. 『進化報』掲載の小説⁹⁾

『小額』, 友梅松齡編, 社会小説

2. 『京話日報』

『新鮮滋味』二十七種(内、第二十三種の題名が現在のところ不明である)は、「損公」の筆名で、『京話日報』に掲載された。各小説の後に所収書籍名、所蔵図書館名を記した。『京話日報』は、全国図書館文献縮微复制中心刊の『京話日報』(12冊)と中華全国図書館文献縮微中心制作のマイクロフィルムで見られるほか、サイト『北京记忆』の〈昨日报章〉で閲覧できるが、「損公」の小説が掲載された時期は欠号が多く、『筆記小説大観』に所収されている作品以外は、中国国立図書館蔵の単行本で見られるだけである。(サイト『北京记忆』の『京話日報』は、中華全国図書館文献縮微中心制作のマイクロフィルムと同じものと思われる。)

『姑作婆』, 第一種, 警世小説, 中国国立図書館所蔵線装本、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『苦哥哥』, 第二種, 倫理小説, 中国国立図書館所蔵線装本。

『理學周』, 第三種, 中国国立図書館所蔵線装本、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『麻花劉』, 第四種, 社会小説, 『筆記小説大観9編』9冊所収。

『褲緞眼』, 第五種, 『清末民初小説書系』警世編所収。

『劉軍門』, 第六種, 『清末民初小説書系』社会編所収。

『苦鴛鴦』, 第七種, 中国首都図書館所蔵剪報本。

『張二奎』, 第八種, 警世小説, 『筆記小説大観9編』9冊所収。

『一壺醋』, 第九種, 『筆記小説大観9編』9冊所収。

『鐵王三』, 第十種, 『清末民初小説書系』警世編、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『花甲姻緣』, 第十一種, 『清末民初小説書系』警世編、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『鬼吹燈』, 第十二種, 『筆記小説大観9編』9冊所収。

『趙三黑』, 第十三種, 『清末民初小説書系』社会編、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『張文斌』, 第十四種, 『京話日報』、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『搜救孤』, 第十五種, 『清末民初小説書系』社会編、『筆記小説大観9編』9冊所収。

『王遯世』, 第十六種, 中国国立図書館線装本所蔵、『筆記小説大観9編』10冊所収。

『小蠟子』, 第十七種, 『清末民初小説書系』警世編、『筆記小説大観9編』10冊所収。

『曹二更』, 第十八種, 『清末民初小説書系』警世編、『筆記小説大観9編』10冊所収。

『董新心』, 第十九種, 『清末民初小説書系』社会編、『筆記小説大観9編』10冊所収。

『非慈論』, 第二十種, 『京話日報』第12册収6回、『清末民初小説書系』社会編所収。

『貞魂義魄』, 第二十一種, 中国首都図書館所蔵剪報本、『京話日報』第12册収第八, 九, 十, 十二, 十三, 十四, 十五, 十六葉。

『回頭岸』, 第二十二種, 『京話日報』第12册収第一, 二, 三葉。

『方圓頭』, 第二十四種, 中国首都図書館所蔵剪報本。

『酒之害』, 第廿五種, 天津図書館所蔵単行本。

『五人義』, 第廿六種, 天津図書館所蔵単行本。

『鬼社會』, 第廿七種, 天津図書館所蔵単行本。

3. 『順天時報』には、以下28篇の小説が掲載された。『順天時報』は、国立国会図書館所蔵のも

のを中心に収集、欠号がある場合は、中華全国図書館文献縮微中心制作マイクロフィルムで補った。北京大学図書館所蔵の『順天時報』はマイクロフィルム化されていないようで、閲覧は難しいようである。

『新偵探』(23回)、筆名「損」、1912年12月3日-1912年12月29日完。

『夢中赴會』(完篇)、筆名「損」、1913年1月1日、新年小説。

『二十世紀新現象』(264回)、筆名「損」、1913年1月5日-1913年11月25日完。

『脳筋病』(読み切り)、筆名「退化」、1914年1月1日。

『孝子尋親記』(151回)、筆名「退化」、1913年11月26日-1914年6月24日完。

『感應篇』(24回)、筆名「損公」、1914年6月25日-1914年7月29日完、短編小説。

『張軍門』(40回)、筆名「退化」、1914年7月30日-1914年9月23日完、短編小説。

『家庭魔鬼』(62回)、筆名「退化・損公」、1914年9月22日-1914年12月11日完、(9月24日の筆者名は「損公」である)、短篇倫理小説。

『潘老丈』(126回)、筆名「損公」、1914年12月12日-1915年5月30日完、社会小説。

『伶人熱心』(36回)、筆名「損公」、1915年6月1日-1915年7月22日完、短篇社会小説。

『海公子』(94回)、筆名「損公」、1915年7月23日-1915年11月21日完、社会小説。

『汪大頭』(29回)、筆名「損公」、1915年11月23日-1915年12月26日完、社会小説。

『大劈棺』(104回)、筆名「損公」、1916年1月1日-1916年6月28日完、社会小説。

『大小騙』(7回)、筆名「損公」、1916年6月29日-1916年7月6日完、短編小説。

『姚三楞』(39回)、筆名「損公」、1916年7月7日-1916年9月5日完、社会小説。

『苦女兒』(43回)、筆名「損公」、1916年9月6日-1916年10月31日完、短篇小説。

『劉癩子』(44回)、筆名「損公」、1916年11月2日-1916年12月29日完、偵探小説。

『賀新春』(46回)、筆名「損公」、1917年1月1日-1917年3月15日完、社会小説。

『金永年』(62回)、筆名「損公」、1917年3月16日-1917年5月29日完、倫理小説。

『兩捆錢』(22回)、筆名「損公」、1917年5月31日-1917年6月28日完、短編小説。

『奉教張』(46回)、筆名「損公」、1917年6月29日-1917年8月22日完、短編小説。

『王小六』(22回)、筆名「損公」、1917年8月23日-1917年9月16日完、短編小説。

『蘇造肉』(35回)、筆名「損公」、1917年9月18日-1917年10月28日完、短編小説。

『王善人』(25回)、筆名「損公」、1917年10月30日-1917年11月30日完、短編小説。

『騙中騙』(読み切り)、筆名「老梅」、1917年11月20日。

『錢串子』(24回)、筆名「損公」、1917年12月1日-1917年12月29日完、短編小説。

『粉羅成』(69回)、筆名「損公」、1918年1月1日-1918年4月2日完、短編小説。

『小世界』(72回)、筆名「損公」、1918年4月3日-1918年6月25日完、短編小説。

4. 北京『益世報』には、主として「亦我」の筆名を使って、以下の25篇の小説を連載した。『益世報』は、中華全国図書館文献縮微中心制作のマイクロフィルムを調査した。サイト『北京記憶』でも閲覧可能である。(このサイトの『益世報』は、中華全国図書館文献縮微中心制作のマイクロフィルムと同じものと思われる。)

『高明遠』、筆名「老梅」、1917年1月28日-1917年2月18日完、倫理小説。

『張和尚』、筆名「亦我」、1917年2月19日-1917年3月17日完、社会小説。

『怪現狀』、筆名「亦我」、1917年3月18日-1918年2月18日完、時事小説。

『過新年』共94、筆名「亦我」、1918年2月19日-1918年6月4日完、小説。

- 『回頭岸』共62, 筆名「亦我」, 1918年6月5日-1918年8月27日完, 小説。
 『土匪學生』共25, 筆名「亦我」, 1918年8月28日-1918年9月23日完, 小説。
 『八戒常』共37, 筆名「亦我」, 1918年9月24日-1918年11月6日完, 小説。
 『王有道』共25, 筆名「亦我」, 1918年11月7日-1918年12月4日完, 社会小説。
 『大車楊』共46, 筆名「亦我」, 1918年12月5日-1919年1月28日完, 小説。
 『苦家庭』, 筆名「亦我」, 1919年2月1日-1919年4月1日完, 社会小説。
 『悪社会』, 筆名「亦我」, 1919年4月2日-1919年年8月8日完, 小説。
 『賈萬能』, 筆名「亦我」, 1919年8月9日-1919年10月15日完, 小説。
 『劉阿英』, 筆名「亦我」, 1919年10月16日-1919年11月17日完, 小説。
 『中國魂』, 筆名「亦我」, 1919年11月18日-1920年2月9日完, 小説。
 『螻屈太守』, 筆名「亦我」, 1920年1月10日-1920年3月18日完, 小説。
 『大興王』, 筆名「亦我」, 1920年3月19日-1920年4月23日完, 小説。
 『謝大娘』, 筆名「亦我」, 1920年4月24日-1920年6月7日完, 小説。
 『和尚尋親』, 筆名「亦我」, 1920年6月8日-1920年8月2日完, 小説。
 『雙料義務』, 筆名「亦我」, 1920年8月3日-1920年10月10日完, 小説。
 『勢利鬼』, 筆名「亦我」, 1920年10月12日-1920年12月14日完, 小説。
 『店中美人』, 筆名「亦我」, 1920年12月15日-1921年2月7日完, 小説。
 『以德報怨』, 筆名「亦我」, 1921年2月14日-1921年4月12日完, 小説。
 『劉三怕』, 筆名「亦我」, 1921年4月13日-1921年6月19日完, 小説。
 『王翻譯』, 筆名「亦我」, 1921年6月22日-1921年8月6日完, 小説。
 『美人首』, 筆名「亦我」, 1921年8月7日-1921年10月1日完, 小説。

5. 『白話国強報』には、以下15編の小説が「損公」の名で連載された。①～⑩⑫⑬は、北京首都図書館に「剪報本」が所蔵されているが、掲載月日については、不明ものがある。『白話国強報』は『中国早期白话报汇编』第32冊に所収されている。

- ①『連環套』(27葉), 筆名「損公」, 1918年10月20日-7年11月15日, 警世小説
- ②『郭孝婦』(29葉), 筆名「損公」, 1918年11月16日-12月16日, 倫理小説
- ③『驢肉紅』(38葉), 筆名「損公」, 1918年12月17日-1919年1月19日, 時事小説
- ④『鄭禿子』(29葉), 筆名「損公」, 1919年2月25日-3月25日, 警世小説
- ⑤『大櫻桃』(28葉), 筆名「損公」, 1919年6月2日-6月31日, 社会小説
- ⑥『白公雞』(33葉), 筆名「損公」, 1919年7月14日-10月18日, 警世小説
- ⑦『膠皮車』(32葉), 筆名「損公」, 1919年10月19日-11月20日, 警世小説
- ⑧『賽劉海』(32葉), 筆名「損公」, 1920年1月26日-3月4日, 警世小説
- ⑨『忠孝全』(51葉), 筆名「損公」, 1920年3月30日-5月19日, 警世小説
- ⑩『二家敗』(33葉), 筆名「損公」, 1920年5月22日-6月25日, 警世小説
- ⑪『人人樂』(30葉), 筆名「損公」, 1920年9年6月26日(第14葉:7月12日)-?, 警世小説
- ⑫『紅顏薄命』, 筆名「損公」, 第35葉:1920年11月2日、第38葉:11月5日, 警世小説
- ⑬『贾克理』, 筆名「損公」, 第1葉:1920年11月6日、第12葉:11月17日, 警世小説
- ⑭『騙中王』, 筆名「損公」, 第15葉:1923年12月3日, 警世小説
- ⑮『瞎松子』, 筆名「損公」, 中国国立図書館所蔵剪報本(連載期日は不明)。

この他、『白話国強報』には損公の小説の広告に『鞭子常』、『山東馬』、『徐狗子』、『人樂人』、

『路三寶』、『黒鍋底』、『一聲□』、『五百萬』等の作品名が見える。「損公」は、一つの小説の連載を終えると、翌日から新しい小説を連載することも多く、現在わかっている上記の作品の掲載期間（1918年から1920年まで）には、空白期間が何カ所もある。広告の作品群がこの空白期間に発表された可能性がある。

五、雑文目録

社説に相当する「演説」やコラム『益世餘譚』の話題は、文学以外に政治、教育、経済、さらに医薬問題、農業振興策等多岐にわたり、その博覧強記ぶりが窺われる。

1. 「演説、社会見聞、実業叢談」

最初の2篇は『白話國強報』に、それ以外は北京『益世報』に掲載された。使われた筆名は、「蔡友梅」、「亦我」、「梅菟」、「老梅」である。

- 「雙十節遊記」, 蔡友梅, 284號, 演説
- 「雙十節遊記」(續昨), 蔡友梅, 285號, 演説
- 「口蘑料酒」, 蔡友梅, 1917年2月5日, 演説
- 「星期一模範講演之講稿」, 蔡友梅, 1917年2月6日, 演説
- 「六多」, 蔡友梅, 1917年2月10日, 演説
- 「歐洲小戰」, 蔡友梅, 1917年2月15日, 演説
- 「魔鬼」, 蔡友梅, 1917年2月21日, 演説
- 「聽戲下館子」, 蔡友梅, 1917年2月26日, 演説
- 「作法贅言」, 蔡友梅, 1917年3月1日, 演説
- 「多兒多女多冤家」, 蔡友梅, 1917年3月6日, 演説
- 「去而復返」, 蔡友梅, 1917年3月11日, 演説
- 「劣勝優敗」, 蔡友梅, 1917年3月18日, 演説
- 「沒心沒肺」, 蔡友梅, 1917年3月23日, 演説
- 「名利」, 蔡友梅, 1917年4月1日, 演説
- 「紀念祝詞」, 蔡友梅, 1917年4月8日, 演説
- 「内傷外感」, 蔡友梅, 1917年4月28日, 演説
- 「推背圖」, 亦我, 1917年5月2日, 演説
- 「高人」, 亦我, 1917年5月14日, 演説
- 「高人(續昨)」, 亦我, 1917年5月15日, 演説
- 「高人(再續)」, 亦我, 1917年5月16日, 演説
- 「高人(三續)」, 亦我, 1917年5月17日, 演説
- 「不發財的毛病」, 蔡友梅, 1917年5月24日, 演説
- 「好人挨餓」, 蔡友梅, 1917年5月27日, 演説
- 「野老閒談」, 蔡友梅, 1917年5月30日, 演説
- 「害人」, 蔡友梅, 1917年6月7日, 演説
- 「妖孽」, 蔡友梅, 1917年6月10日, 演説
- 「真朋友」, 蔡友梅, 1917年6月16日, 演説
- 「五月節」, 蔡友梅, 1917年6月23日, 演説
- 「打麻雀」, 蔡友梅, 1917年6月30日, 演説

- 「家庭簡易良藥」, 梅菟, 1917年7月1日, 演説
「家庭簡易良藥 (續昨)」, 梅菟, 1917年7月2日, 演説
「參觀第三貧民學校開幕記」, 老梅, 1917年7月2日, 第4版
「種寶石」, 梅菟, 1917年7月10日, 泰西故事
「戒青年勿急想發財」, 梅菟, 1917年7月11日,
「風地裏罵聾子」, 蔡友梅, 1917年7月15日, 演説
「種藍製靛之方法」, 梅菟, 1917年7月19日, 實業叢談
「種藍製靛之方法 (續前)」, 梅菟, 1917年7月21日, 實業叢談
「新謠言宜禁」, 蔡友梅, 1917年7月24日, 演説
「說種落花生之利益」, 梅菟, 1917年7月25日, 實業叢談
「說種落花生之利益 (續)」, 梅菟, 1917年7月26日, 實業叢談
「說種落花生之利益 (續)」, 梅菟, 1917年7月27日, 實業叢談
「連陰雨」, 亦我, 1917年7月28日, 演説
「勸種楊樹淺説」, 梅菟, 1917年7月28日, 實業叢談
「沒真朋友」, 蔡友梅, 1917年7月31日, 演説
「三大要素」, 蔡友梅, 1917年8月4日, 演説
「旱潦」, 亦我, 1917年8月6日, 演説
「游民」, 梅菟, 1917年8月8日, 演説
「游民 (續昨)」, 梅菟, 1917年8月9日, 演説
「可笑可哭」, 蔡友梅, 1917年8月12日, 演説
「嗎啡針」, 蔡友梅, 1917年8月13日, 演説
「移家」, 梅菟, 1917年8月13日, 詩詞
「梅花」, 梅菟, 1917年8月14日, 詩詞
「閑居四首」, 梅菟, 1917年8月15日, 詩詞
「通州早發」, 梅菟, 1917年8月16日, 詩詞
「對德宣戰」, 蔡友梅, 1917年8月17日, 演説
「說霧」, 亦我, 1917年8月18日, 演説
「記講演觀摩會」, 亦我, 1917年8月21日, 社会見聞
「馬鈴薯之栽培法」, 梅菟, 1917年8月25日, 實業叢談

2. コラム『益世餘譚』は372篇あり、そのうち「蔡松齡」2篇、「老梅」1篇、「亦我」5篇、「蔡友梅」1篇の他は、「梅菟」(菟梅1篇)の署名である。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 「老大病夫」, 梅菟, 1919年11月21日 | 「五虎可怕」, 梅菟, 1919年11月22日 |
| 「冤人老會」, 梅菟, 1919年11月23日 | 「藥鋪門面」, 梅菟, 1919年11月24日 |
| 「五星聯珠」, 梅菟, 1919年11月25日 | 「安福新解」, 梅菟, 1919年11月26日 |
| 「人民程度」, 梅菟, 1919年11月27日 | 「小學教員」, 梅菟, 1919年11月28日 |
| 「道聽途説」, 梅菟, 1919年11月29日 | 「大縉小縉」, 梅菟, 1919年11月30日 |
| 「教員兼職」, 梅菟, 1919年12月1日 | 「八旗現象」, 梅菟, 1919年12月3日 |
| 「娶妻擇母」, 梅菟, 1919年12月4日 | 「留神小福」, 梅菟, 1919年12月5日 |
| 「不愧親善」, 梅菟, 1919年12月6日 | 「寶局籌款」, 梅菟, 1919年12月7日 |
| 「學界苦況」, 梅菟, 1919年12月8日 | 「拉車者言」, 梅菟, 1919年12月9日 |

- 「這話很對」, 梅蒐, 1919年12月10日
- 「五星示警」, 梅蒐, 1919年12月12日
- 「社會教育」, 梅蒐, 1919年12月14日
- 「也不兌現」, 梅蒐, 1919年12月16日
- 「悲觀之言」, 梅蒐, 1919年12月18日
- 「那就是了」, 梅蒐, 1919年12月20日
- 「麻雀普及」, 梅蒐, 1919年12月22日
- 「蒸鍋二則」, 梅蒐, 1919年12月24日
- 「十枚二猪」, 梅蒐, 1919年12月27日
- 「四郎探母」, 梅蒐, 1919年12月29日
- 「八年成績」, 梅蒐, 1920年12月31日
- 「拿病押寶」, 梅蒐, 1920年1月6日
- 「大斃汽車」, 梅蒐, 1920年1月8日
- 「老醫治驢」, 梅蒐, 1920年1月10日
- 「怪事很多」, 梅蒐, 1920年1月12日
- 「破除情面」, 梅蒐, 1920年1月14日
- 「社會黑幕」, 梅蒐, 1920年1月16日
- 「那就好了」, 梅蒐, 1920年1月18日
- 「三復斯言」, 梅蒐, 1920年1月20日
- 「學李百歲」, 梅蒐, 1920年1月22日
- 「蒜錘騙人」, 梅蒐, 1920年1月24日
- 「安有便宜」, 梅蒐, 1920年1月26日
- 「怪物甚多」, 梅蒐, 1920年1月28日
- 「老坐汽車」, 梅蒐, 1920年1月30日
- 「特別迷信」, 梅蒐, 1920年2月1日
- 「懷柔王令」, 梅蒐, 1920年2月3日
- 「廣義飯鍋」, 梅蒐, 1920年2月6日
- 「汽車飛艇」, 梅蒐, 1920年2月8日
- 「乞丐腦筋」, 梅蒐, 1920年2月10日
- 「人心大變」, 梅蒐, 1920年2月12日
- 「歸併紀念」, 梅蒐, 1920年2月15日
- 「彼三分兮」, 梅蒐, 1920年2月17日
- 「歲末感慨」, 蔡松齡, 1920年2月19日
- 「旗人下場」, 梅蒐, 1920年2月27日
- 「全是蒙事」, 梅蒐, 1920年2月29日
- 「菓子豆兒」, 梅蒐, 1920年3月2日
- 「亞強挑兵」, 梅蒐, 1920年3月4日
- 「勢利空氣」, 梅蒐, 1920年3月6日
- 「花子食鴨」, 梅蒐, 1920年3月8日
- 「製造火災」, 梅蒐, 1920年3月10日
- 「人不如狗」, 梅蒐, 1919年12月11日
- 「狗復自由」, 梅蒐, 1919年12月13日
- 「各道饑寒」, 梅蒐, 1919年12月15日
- 「雲鵬竊笑」, 梅蒐, 1919年12月17日
- 「將軍太多」, 梅蒐, 1919年12月19日
- 「八旗生計」, 梅蒐, 1919年12月21日
- 「七多可怕」, 梅蒐, 1919年12月23日
- 「通俗教育」, 梅蒐, 1919年12月25日
- 「教育可哭」, 梅蒐, 1919年12月28日
- 「中國家族」, 梅蒐, 1919年12月30日
- 「燈謎世界」, 梅蒐, 1920年1月5日
- 「安問狐狸」, 梅蒐, 1920年1月7日
- 「不敢妄談」, 梅蒐, 1920年1月9日
- 「公德私心」, 梅蒐, 1920年1月11日
- 「埋沒英雄」, 梅蒐, 1920年1月13日
- 「新舊摟匠」, 梅蒐, 1920年1月15日
- 「我說都好」, 梅蒐, 1920年1月17日
- 「賣府感言」, 梅蒐, 1920年1月19日
- 「怪事半打」, 梅蒐, 1920年1月21日
- 「明夥時代」, 梅蒐, 1920年1月23日
- 「牛狗車穰」, 梅蒐, 1920年1月25日
- 「三大主義」, 梅蒐, 1920年1月27日
- 「自殺主義」, 梅蒐, 1920年1月29日
- 「人情運動」, 梅蒐, 1920年1月31日
- 「人心不古」, 梅蒐, 1920年2月2日
- 「可以風矣」, 梅蒐, 1920年2月5日
- 「駭人聽聞」, 梅蒐, 1920年2月7日
- 「受愛國罪」, 梅蒐, 1920年2月9日
- 「及時行樂」, 梅蒐, 1920年2月11日
- 「鳳毛麟角」, 梅蒐, 1920年2月14日
- 「持平之論」, 梅蒐, 1920年2月16日
- 「心裏拜年」, 蔡松齡, 1920年2月18日
- 「吉祥新報」, 梅蒐, 1920年2月26日
- 「西藥宜慎」, 梅蒐, 1920年2月28日
- 「觀劇感言」, 梅蒐, 1920年3月1日
- 「不買窩頭」, 梅蒐, 1920年3月3日
- 「上海之妖」, 梅蒐, 1920年3月5日
- 「明年燈節」, 梅蒐, 1920年3月7日
- 「官私歷書」, 梅蒐, 1920年3月9日
- 「限制野藥」, 梅蒐, 1920年3月11日

- 「勤公二字」, 梅菟, 1920年3月12日
 「上行下效」, 梅菟, 1920年3月14日
 「李瘋第二」, 梅菟, 1920年3月16日
 「不辭而別」, 梅菟, 1920年3月18日
 「商德手術」, 梅菟, 1920年3月20日
 「愛鳥如命」, 梅菟, 1920年3月22日
 「記田世光」, 梅菟, 1920年3月24日
 「留神八義」, 梅菟, 1920年3月26日
 「妖孽世界」, 梅菟, 1920年3月28日
 「參部苦況」, 梅菟, 1920年3月30日
 「禁絕麻雀」, 梅菟, 1920年4月1日
 「借孫拿空」, 梅菟, 1920年4月3日
 「得用犀角」, 梅菟, 1920年4月6日
 「小于賣針」, 梅菟, 1920年4月8日
 「什麼巡警」, 梅菟, 1920年4月11日
 「仙福仙罪」, 梅菟, 1920年4月14日
 「幾個死呀」, 梅菟, 1920年4月16日
 「濟世活人」, 梅菟, 1920年4月19日
 「以怨報德」, 梅菟, 1920年4月21日
 「鐵打寶局」, 梅菟, 1920年4月23日
 「貓頂喪狗架靈」, 菟梅, 1920年4月25日
 「貧民借本」, 梅菟, 1920年4月27日
 「馬前潑水」, 梅菟, 1920年4月29日
 「官場三奇」, 梅菟, 1920年5月1日
 「謠言宜禁」, 梅菟, 1920年5月3日
 「迎頭打虎」, 梅菟, 1920年5月5日
 「劉嫗尋子」, 梅菟, 1920年5月8日
 「吵人宜禁」, 梅菟, 1920年5月10日
 「軍人商戰」, 梅菟, 1920年5月12日
 「別貪便宜」, 梅菟, 1920年5月14日
 「原則例外」, 梅菟, 1920年5月16日
 「豚尾拜香」, 梅菟, 1920年5月18日
 「不足爲怪」, 梅菟, 1920年5月20日
 「油炸蠍虎」, 梅菟, 1920年5月22日
 「謠言惑衆」, 梅菟, 1920年5月24日
 「拐騙進化」, 梅菟, 1920年5月26日
 「吃飯三則」, 梅菟, 1920年5月28日
 「北京十多」, 梅菟, 1920年5月30日
 「黃氏可風」, 梅菟, 1920年6月1日
 「前車之鑑」, 梅菟, 1920年6月3日
 「藏龍臥虎」, 梅菟, 1920年3月13日
 「四盆牡丹」, 梅菟, 1920年3月15日
 「亞賽蒿燈」, 梅菟, 1920年3月17日
 「學界如此」, 梅菟, 1920年3月19日
 「鄉人愛談時事」, 梅菟, 1920年3月21日
 「虎皮作用」, 梅菟, 1920年3月23日
 「禁止獎券」, 梅菟, 1920年3月25日
 「枵腹從公」, 梅菟, 1920年3月27日
 「三件不平」, 梅菟, 1920年3月29日
 「冰玉雙絕」, 梅菟, 1920年3月31日
 「借孝行騙」, 梅菟, 1920年4月2日
 「雙方注意」, 梅菟, 1920年4月4日
 「加分謹慎」, 梅菟, 1920年4月7日
 「張垣警察」, 梅菟, 1920年4月10日
 「始作俑者」, 梅菟, 1920年4月13日
 「孝弟忠信」, 梅菟, 1920年4月15日
 「同是命也」, 梅菟, 1920年4月18日
 「巡迴賭局」, 梅菟, 1920年4月20日
 「二立認父」, 梅菟, 1920年4月22日
 「借錢買魚」, 梅菟, 1920年4月24日
 「取締相聲」, 梅菟, 1920年4月26日
 「和尚駕雲」, 梅菟, 1920年4月28日
 「以龍遇虎」, 梅菟, 1920年4月30日
 「一還一報」, 梅菟, 1920年5月2日
 「汽車強盜」, 梅菟, 1920年5月4日
 「胖子吹牛」, 梅菟, 1920年5月6日
 「實行親善」, 梅菟, 1920年5月9日
 「喜棚起打」, 梅菟, 1920年5月11日
 「害人自害」, 梅菟, 1920年5月13日
 「小說關係」, 梅菟, 1920年5月15日
 「教育關係」, 梅菟, 1920年5月17日
 「彼五人兮」, 梅菟, 1920年5月19日
 「抱菊者流」, 梅菟, 1920年5月21日
 「害人買賣」, 梅菟, 1920年5月23日
 「老者牢騷」, 梅菟, 1920年5月25日
 「專制共和」, 梅菟, 1920年5月27日
 「李孝子傳」, 梅菟, 1920年5月29日
 「不知孰是」, 梅菟, 1920年5月31日
 「不倫不類」, 梅菟, 1920年6月2日
 「共和專制」, 梅菟, 1920年6月4日

- 「奪標感言」, 梅菟, 1920年6月6日
- 「教育原理」, 梅菟, 1920年6月8日
- 「我聞如是」, 梅菟, 1920年6月10日
- 「告奎星垣」, 梅菟, 1920年6月12日
- 「調經養血」, 梅菟, 1920年6月14日
- 「多多注意」, 梅菟, 1920年6月16日
- 「以好換好」, 梅菟, 1920年6月18日
- 「二閘遊記」, 梅菟, 1920年6月20日
- 「多活少活」, 梅菟, 1920年6月23日
- 「戲劇關係」, 老梅, 1920年6月25日
- 「好歹兩說」, 梅菟, 1920年6月27日
- 「水龍送庫」, 梅菟, 1920年6月29日
- 「謠言之原」, 梅菟, 1920年7月1日
- 「滿是生意」, 梅菟, 1920年7月3日
- 「米湯洋酒」, 梅菟, 1920年7月6日
- 「提倡棉業」, 梅菟, 1920年7月8日
- 「人闖命貴」, 梅菟, 1920年7月10日
- 「似乎頑固」, 梅菟, 1920年7月12日
- 「自找其打」, 梅菟, 1920年7月14日
- 「不准停演」, 梅菟, 1920年7月16日
- 「善正惡五」, 梅菟, 1920年7月18日
- 「鈕子燒餅」, 梅菟, 1920年7月20日
- 「閩王瓦片」, 梅菟, 1920年7月22日
- 「有心沒肺」, 梅菟, 1920年7月24日
- 「老者牢騷」, 梅菟, 1920年7月26日
- 「是非成敗」, 梅菟, 1920年7月28日
- 「你可來了」, 梅菟, 1920年7月30日
- 「臉壯臉薄」, 梅菟, 1920年8月1日
- 「不敢歡迎」, 梅菟, 1920年8月3日
- 「天淵之別」, 梅菟, 1920年8月5日
- 「天演淘汰」, 梅菟, 1920年8月7日
- 「安知非福」, 梅菟, 1920年8月9日
- 「莫抱樂觀」, 梅菟, 1920年8月12日
- 「不幸之幸」, 梅菟, 1920年8月14日
- 「安禍俱樂部」, 梅菟, 1920年8月16日
- 「請助大桂」, 梅菟, 1920年8月18日
- 「金禿兒傳」, 梅菟, 1920年8月20日
- 「棄文學武」, 梅菟, 1920年8月22日
- 「三說五星」, 梅菟, 1920年8月24日
- 「四個金牙」, 梅菟, 1920年8月26日
- 「保貴可貴」, 梅菟, 1920年6月7日
- 「相士身分」, 梅菟, 1920年6月9日
- 「文竹天冬」, 梅菟, 1920年6月11日
- 「樓子不小」, 梅菟, 1920年6月13日
- 「市場改良」, 梅菟, 1920年6月15日
- 「穿竹布衫」, 梅菟, 1920年6月17日
- 「評書大會」, 梅菟, 1920年6月19日
- 「好人尚多」, 梅菟, 1920年6月22日
- 「買票現象」, 梅菟, 1920年6月24日
- 「和氣爲本」, 梅菟, 1920年6月26日
- 「李蔭青傳」, 梅菟, 1920年6月28日
- 「取締改戲」, 梅菟, 1920年6月30日
- 「夏季衛生」, 梅菟, 1920年7月2日
- 「鐵嘴被騙」, 梅菟, 1920年7月5日
- 「着急害怕」, 梅菟, 1920年7月7日
- 「麻雀科長」, 梅菟, 1920年7月9日
- 「觀劇感言」, 梅菟, 1920年7月11日
- 「好人難作」, 梅菟, 1920年7月13日
- 「莫談國事」, 梅菟, 1920年7月15日
- 「插刀盜鈎」, 梅菟, 1920年7月17日
- 「福在眼前」, 梅菟, 1920年7月19日
- 「運氣不濟」, 梅菟, 1920年7月21日
- 「腦筋簡單」, 梅菟, 1920年7月23日
- 「廚子拉車」, 梅菟, 1920年7月25日
- 「其福安在」, 梅菟, 1920年7月27日
- 「哭菱角坑」, 梅菟, 1920年7月29日
- 「殷鑑不遠」, 梅菟, 1920年7月31日
- 「仰瞻風采」, 梅菟, 1920年8月2日
- 「於心安乎」, 梅菟, 1920年8月4日
- 「不够朋友」, 梅菟, 1920年8月6日
- 「利令智昏」, 梅菟, 1920年8月8日
- 「唱春之花」, 梅菟, 1920年8月10日
- 「鐵機緞眼」, 梅菟, 1920年8月13日
- 「認好祖宗」, 梅菟, 1920年8月15日
- 「三起三落」, 梅菟, 1920年8月17日
- 「度日如年」, 梅菟, 1920年8月19日
- 「諸侯拉車」, 梅菟, 1920年8月21日
- 「嘴吧大爺」, 梅菟, 1920年8月23日
- 「還是他」, 梅菟, 1920年8月25日
- 「安孚胡同」, 梅菟, 1920年8月27日

- 「天禍中國」，梅蒐，1920年8月28日
「嚴世藩割股」，梅蒐，1920年8月30日
「銅鐵舖搬家」，梅蒐，1920年9月10日
「對不起汽車」，梅蒐，1920年9月19日
「燕舞臺現象」，梅蒐，1920年9月21日
「桑園寄子」，梅蒐，1920年9月23日
「耗子藥」，梅蒐，1920年9月25日
「變像骨牌寶」，梅蒐，1920年9月29日
「不宜好待」，梅蒐，1920年10月1日
「洪水猛獸世界」，梅蒐，1920年10月3日
「外佛事」，梅蒐，1920年10月5日
「國慶日」，梅蒐，1920年10月7日
「高湯沒油」，梅蒐，1920年10月9日
「姑奶奶過激派」，梅蒐，1920年10月12日
「女賓聽講」，梅蒐，1920年10月14日
「嗎啡話匣」，梅蒐，1920年10月16日
「豈少人才」，梅蒐，1920年10月18日
「活受罪」，梅蒐，1920年10月20日
「敗類宜懲」，梅蒐，1920年10月22日
「于某第二」，梅蒐，1920年10月24日
「間接腰箍」，梅蒐，1920年10月26日
「燒喇嘛」，梅蒐，1920年10月28日
「釣金鰲不照鏡子」，梅蒐，1920年10月30日
「左六六」，梅蒐，1920年11月1日
「閉塞善門」，梅蒐，1920年11月3日
「馬公之言」，梅蒐，1920年11月5日
「糟踏新名辭」，梅蒐，1920年11月7日
「闊人萬別害病」，梅蒐，1920年11月9日
「歡迎署長」，梅蒐，1920年11月11日
「好爛白肉」，梅蒐，1920年11月13日
「未免窩窩」，梅蒐，1920年11月15日
「金手捧子」，梅蒐，1920年11月17日
「甚麼心工兒」，梅蒐，1920年11月20日
「要錢背四六」，梅蒐，1920年11月22日
「掌竈的該打」，梅蒐，1920年11月24日
「民生毛巾工廠」，梅蒐，1920年11月26日
「金牙洋車」，梅蒐，1920年11月28日
「面壁把酒堵耳朵」，梅蒐，1920年11月30日
「兄弟摸黑兒」，梅蒐，1920年12月2日
「請助窩頭」，亦我，1920年12月4日
「善先善後」，梅蒐，1920年8月29日
「以防假冒」，梅蒐，1920年9月9日
「迷信革命」，梅蒐，1920年9月17日
「民國官事」，梅蒐，1920年9月20日
「必有妖孽」，梅蒐，1920年9月22日
「寔在慚愧」，梅蒐，1920年9月24日
「汪大頭」，梅蒐，1920年9月28日
「中華民國特色」，梅蒐，1920年9月30日
「吉祥三怪」，梅蒐，1920年10月2日
「責在政府」，梅蒐，1920年10月4日
「一個馬杓壞一鍋」，梅蒐，1920年10月6日
「這話很對」，梅蒐，1920年10月8日
「打睡虎子」，梅蒐，1920年10月10日
「好脆嘴巴」，梅蒐，1920年10月13日
「商戰敗失」，梅蒐，1920年10月15日
「何責暴民」，梅蒐，1920年10月17日
「晚華高義」，梅蒐，1920年10月19日
「真鬼活鬼」，梅蒐，1920年10月21日
「禁煙前途」，梅蒐，1920年10月23日
「今之愚者」，梅蒐，1920年10月25日
「心死」，梅蒐，1920年10月27日
「教員唱落馬湖」，梅蒐，1920年10月29日
「匪徒宜懲」，梅蒐，1920年10月31日
「勢力鬼第二」，梅蒐，1920年11月2日
「覆巢之下」，梅蒐，1920年11月4日
「我沒棉襖」，梅蒐，1920年11月6日
「不開地址」，梅蒐，1920年11月8日
「瞎子開寶」，梅蒐，1920年11月10日
「員外拉車筆政坐」，梅蒐，1920年11月12日
「禍由自取」，梅蒐，1920年11月14日
「旗餉教薪參謀部」，梅蒐，1920年11月16日
「中國妖孽」，梅蒐，1920年11月19日
「毆車夫一樣畫葫蘆」，梅蒐，1920年11月21日
「室有魔鬼」，梅蒐，1920年11月23日
「鳴謝」，梅蒐，1920年11月25日
「死鬼帶家當」，梅蒐，1920年11月27日
「請看法講演」，梅蒐，1920年11月29日
「年高缺德」，梅蒐，1920年12月1日
「參觀作法講演」，亦我，1920年12月3日
「胖子催車」，亦我，1920年12月5日

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 「高等庫兵」, 亦我, 1920年12月6日 | 「傷風敗俗」, 亦我, 1920年12月7日 |
| 「山高總統遠」, 梅菟, 1920年12月8日 | 「父子同髦」, 梅菟, 1920年12月9日 |
| 「黃金台帶盤關」, 梅菟, 1920年12月10日 | 「難繪圖員」, 梅菟, 1920年12月11日 |
| 「清那貧民學校」, 蔡友梅, 1920年12月12日 | 「醫生須以人命爲重」, 梅菟, 1920年12月13日 |
| 「少安勿躁」, 梅菟, 1920年12月14日 | 「戲迷饑癆」, 梅菟, 1920年12月16日 |
| 「代周生鳴謝車夫警察」, 梅菟, 1920年12月17日 | 「誠屬多事」, 梅菟, 1920年12月19日 |
| 「異人傳授」, 梅菟, 1920年12月20日 | 「代秀君夫人玉氏求助」, 梅菟, 1920年12月21日 |
| 「姚震綁票」, 梅菟, 1920年12月22日 | 「和氣待人」, 梅菟, 1920年12月23日 |
| 「郵筒又壞了」, 梅菟, 1920年12月24日 | 「住醫院不可不慎」, 梅菟, 1920年12月25日 |
| 「今之古人」, 梅菟, 1920年12月27日 | 「他們我們」, 梅菟, 1920年12月28日 |
| 「九年成績」, 梅菟, 1920年12月29日 | 「大斃罪惡」, 梅菟, 1920年12月30日 |
| 「大員現象」, 梅菟, 1920年12月31日 | 「十年祝辭」, 梅菟, 1921年1月5日 |
| 「還是好人多」, 梅菟, 1921年1月6日 | 「戲無益」, 梅菟, 1921年1月7日 |
| 「社會現狀」, 梅菟, 1921年1月8日 | 「打牌無益」, 梅菟, 1921年1月9日 |
| 「參觀賑災游藝會」, 梅菟, 1921年1月10日 | 「老佛爺不如造孽鬼」, 梅菟, 1921年1月11日 |
| 「又有飛蠅子的」, 梅菟, 1921年1月12日 | 「屈死可以告狀」, 梅菟, 1921年1月13日 |
| 「無罪找枷扛」, 梅菟, 1921年1月15日 | 「招租宜慎」, 梅菟, 1921年1月16日 |

3. 1921年1月17日からコラム名が『餘談』に変更、1921年3月19日まで連載し、54篇のうち「亦我」が1篇、あとは「梅菟」の筆名である。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 「天報善人」, 梅菟, 1921年1月17日 | 「總算進化」, 梅菟, 1921年1月18日 |
| 「我也吃着捐款啦」, 梅菟, 1921年1月19日 | 「模範分家」, 梅菟, 1921年1月20日 |
| 「三怕」, 梅菟, 1921年1月21日 | 「我也許入轅兒」, 梅菟, 1921年1月22日 |
| 「又一齣桑園寄子」, 梅菟, 1921年1月23日 | 「還是謠言」, 梅菟, 1921年1月24日 |
| 「無愧熱心君子」, 梅菟, 1921年1月25日 | 「安嫗可風」, 梅菟, 1921年1月26日 |
| 「改良巴駱和」, 梅菟, 1921年1月27日 | 「造假空氣」, 梅菟, 1921年1月28日 |
| 「陳局長運煤計畫」, 梅菟, 1921年1月29日 | 「究竟不知是誰」, 梅菟, 1921年1月30日 |
| 「筷子開仗」, 梅菟, 1921年1月31日 | 「代貧民子弟鳴謝」, 梅菟, 1921年2月1日 |
| 「互相保證」, 梅菟, 1921年2月2日 | 「禁煙前途」, 梅菟, 1921年2月3日 |
| 「來函者鑑」, 梅菟, 1921年2月4日 | 「那有桃源」, 梅菟, 1921年2月5日 |
| 「一人難稱百人意」, 梅菟, 1921年2月6日 | 「馬君傷心」, 梅菟, 1921年2月7日 |
| 「吃嘴兒迷信」, 梅菟, 1921年2月14日 | 「膠皮無良」, 梅菟, 1921年2月15日 |
| 「筷子樓」, 梅菟, 1921年2月16日 | 「我有大斃」, 梅菟, 1921年2月17日 |
| 「賊走關門」, 梅菟, 1921年2月18日 | 「花錢當義務巡警」, 梅菟, 1921年2月19日 |
| 「陰曆年之三怪」, 梅菟, 1921年2月21日 | 「戰宛城」, 梅菟, 1921年2月22日 |
| 「用藥不可不慎」, 梅菟, 1921年2月23日 | 「怪」, 梅菟, 1921年2月24日 |
| 「賑災保舉」, 梅菟, 1921年2月25日 | 「火神爺愛喝好茶」, 梅菟, 1921年2月26日 |
| 「籬簪胡同」, 梅菟, 1921年2月27日 | 「查票員訴苦」, 梅菟, 1921年2月28日 |
| 「黃瓜香椿」, 梅菟, 1921年3月1日 | 「羚羊」, 梅菟, 1921年3月2日 |
| 「胡某也要行醫」, 梅菟, 1921年3月3日 | 「唱豆兒哭涼糖」, 梅菟, 1921年3月4日 |
| 「電燈汽車窮人嗎啡」, 梅菟, 1921年3月5日 | 「求助二則」, 梅菟, 1921年3月6日 |

「没票要上郎房」, 梅菟, 1921年3月8日	「多預備蠟」, 梅菟, 1921年3月9日
「大小騙」, 梅菟, 1921年3月10日	「會仙店甲乙談選舉」, 梅菟, 1921年3月11日
「謹謝慈善家」, 梅菟, 1921年3月12日	「公德」, 梅菟, 1921年3月13日
「不够資格」, 亦我, 1921年3月14日	「我要愧死」, 梅菟, 1921年3月15日
「第九支局」, 梅菟, 1921年3月16日	「哭馬劉李三君」, 梅菟, 1921年3月17日
「小説」, 梅菟, 1921年3月18日	「人多的原故」, 梅菟, 1921年3月19日

4. 1921年3月20日からコラム名が『餘墨』に変更、1921年10月1日、伝染病に倒れるまで連載し、「亦我」が2篇、「友梅」2篇以外は、「梅菟」の筆名である。

「朱亞民撞木鐘」, 梅菟, 1921年3月20日	「賺錢造孽」, 梅菟, 1921年3月22日
「小絡送煙袋」, 梅菟, 1921年3月23日	「夜戰馬超」, 梅菟, 1921年3月24日
「選舉」, 梅菟, 1921年3月25日	「鳥兒連」, 梅菟, 1921年3月26日
「縱妻論」, 梅菟, 1921年3月27日	「怪信何來」, 梅菟, 1921年3月29日
「小民該死」, 梅菟, 1921年3月30日	「都統也有清廉的」, 梅菟, 1921年3月31日
「護兵與馬車夫」, 梅菟, 1921年4月1日	「相士造謠」, 梅菟, 1921年4月2日
「白話佈告」, 梅菟, 1921年4月3日	「開報館之難」, 梅菟, 1921年4月5日
「鼓掌歡送看戲的」, 梅菟, 1921年4月6日	「生日」, 梅菟, 1921年4月7日
「上墳得僱標客」, 梅菟, 1921年4月8日	「辮子纏足」, 梅菟, 1921年4月10日
「市虎」, 梅菟, 1921年4月12日	「臨時醫家」, 梅菟, 1921年4月13日
「改良定計化緣」, 梅菟, 1921年4月14日	「無獨有偶」, 梅菟, 1921年4月15日
「土埋半截」, 梅菟, 1921年4月16日	「合婚理宜禁止」, 梅菟, 1921年4月17日
「傻辮子」, 梅菟, 1921年4月19日	「官准立案要錢」, 梅菟, 1921年4月20日
「一圓錢」, 梅菟, 1921年4月21日	「忙」, 梅菟, 1921年4月22日
「又代李壽山求助」, 梅菟, 1921年4月23日	「敬告某甲」, 梅菟, 1921年4月26日
「讀日記感言」, 梅菟, 1921年4月27日	「答艾學癡君」, 梅菟, 1921年4月28日
「另尋世界」, 梅菟, 1921年4月29日	「不打就哭」, 梅菟, 1921年5月1日
「種山藥蛋」, 梅菟, 1921年5月4日	「年高無德」, 梅菟, 1921年5月8日
「打車夫」, 梅菟, 1921年5月10日	「得意時須慎言」, 梅菟, 1921年5月12日
「李君之函」, 梅菟, 1921年5月13日	「席票硬作七折」, 梅菟, 1921年5月14日
「明火自由」, 梅菟, 1921年5月17日	「李某可風」, 梅菟, 1921年5月18日
「帶病還家」, 梅菟, 1921年5月20日	「今世古人」, 梅菟, 1921年5月21日
「奴隸性」, 梅菟, 1921年5月22日	「好味道了」, 梅菟, 1921年5月24日
「陳君之言」, 梅菟, 1921年5月25日	「馬褂兒變爛報」, 梅菟, 1921年5月26日
「狗彘食人食」, 梅菟, 1921年5月27日	「將軍賣報」, 梅菟, 1921年5月28日
「照錄石生君來函」, 梅菟, 1921年5月29日	「大捧禿場」, 梅菟, 1921年5月31日
「胖界注意」, 梅菟, 1921年6月1日	「怪事發達」, 梅菟, 1921年6月3日
「照錄笑笑生來函」, 梅菟, 1921年6月4日	「老太太義憤填膺」, 梅菟, 1921年6月5日
「道聽塗說」, 梅菟, 1921年6月7日	「家庭魔鬼」, 梅菟, 1921年6月8日
「那件事這件事」, 梅菟, 1921年6月10日	「巡警拉車夫」, 梅菟, 1921年6月12日
「照錄二十三國民學校來函」, 梅菟, 1921年6月14日	
「排悶」, 梅菟, 1921年6月15日	「對不起義字兒」, 梅菟, 1921年6月16日

- 「覆巢無完卵」, 梅菟, 1921年6月17日
- 「勉奎段諸藝員」, 梅菟, 1921年6月19日
- 「英文書甩頭一子」, 梅菟, 1921年6月23日
- 「原函加註答高少如君」, 梅菟, 1921年6月25日
- 「汪某無良」, 梅菟, 1921年6月28日
- 「無奇不有」, 梅菟, 1921年6月30日
- 「私公寓」, 梅菟, 1921年7月2日
- 「孟子拉車」, 梅菟, 1921年7月5日
- 「詳志改良拉替身」, 梅菟, 1921年7月8日
- 「照函更正」, 梅菟, 1921年7月10日
- 「官紗眼華絲葛鼻子」, 梅菟, 1921年7月13日
- 「何姓不是海軍部茶房」, 梅菟, 1921年7月14日
- 「嗚呼臨時市場之水戰」, 梅菟, 1921年7月22日
- 「打快杓子」, 梅菟, 1921年7月24日
- 「爭煙」, 梅菟, 1921年7月27日
- 「預先提個醒兒」, 梅菟, 1921年7月29日
- 「以人殉牌」, 梅菟, 1921年8月2日
- 「寒心友函南皮匪患」, 梅菟, 1921年8月5日
- 「瞧着支票發愁」, 友梅, 1921年8月6日
- 「慶樂園觀劇記」, 梅菟, 1921年8月11日
- 「新柳林會」, 梅菟, 1921年8月13日
- 「抓官軍運太湖石」, 梅菟, 1921年8月16日
- 「爲盡孝遭危險」, 梅菟, 1921年8月18日
- 「朝鮮人也叫橫」, 梅菟, 1921年8月20日
- 「答不平鳴君」, 梅菟, 1921年8月23日
- 「爲母作壽大哭劉鴻昇」, 梅菟, 1921年8月25日
- 「燒牌」, 梅菟, 1921年8月27日
- 「老實鄉民倒霉遭瘟」, 梅菟, 1921年8月30日
- 「特色現象」, 梅菟, 1921年9月1日
- 「買絲願繡勤果公」, 梅菟, 1921年9月3日
- 「兼差」, 梅菟, 1921年9月8日
- 「白熊報帶儉」, 梅菟, 1921年9月10日
- 「董孝子」, 梅菟, 1921年9月13日
- 「可嘆」, 梅菟, 1921年9月15日
- 「天利軒目觀之現象」, 亦我, 1921年9月18日
- 「何足爲怪」, 梅菟, 1921年9月23日
- 「金君之函」, 梅菟, 1921年9月25日
- 「沒教育」, 梅菟, 1921年9月28日
- 「敬告多言人」, 梅菟, 1921年9月30日
- 「名利」, 梅菟, 1921年6月18日
- 「小長挨打」, 梅菟, 1921年6月22日
- 「西皮賭局」, 梅菟, 1921年6月24日
- 「好吃懶作」, 梅菟, 1921年6月26日
- 「審刺客」, 梅菟, 1921年6月29日
- 「出井覺悟」, 梅菟, 1921年7月1日
- 「改良拉替身」, 梅菟, 1921年7月3日
- 「怪傳單」, 梅菟, 1921年7月7日
- 「特別首善」, 梅菟, 1921年7月9日
- 「趙君所談之三件事」, 梅菟, 1921年7月12日
- 「七吊假票兒」, 梅菟, 1921年7月15日
- 「警蹕」, 梅菟, 1921年7月23日
- 「胡公之言」, 梅菟, 1921年7月26日
- 「反正打虎」, 梅菟, 1921年7月28日
- 「得病濫投醫」, 梅菟, 1921年7月30日
- 「遺傳性」, 梅菟, 1921年8月4日
- 「人皆掩鼻」, 梅菟, 1921年8月6日
- 「又快接罵信了」, 梅菟, 1921年8月10日
- 「張麻子挨打」, 梅菟, 1921年8月12日
- 「待不了十年」, 梅菟, 1921年8月14日
- 「行人情帶高買」, 梅菟, 1921年8月17日
- 「民國人瑞」, 梅菟, 1921年8月19日
- 「打成一片」, 梅菟, 1921年8月21日
- 「不知是怎麼個意思」, 梅菟, 1921年8月24日
- 「水蜥蜴」, 梅菟, 1921年8月26日
- 「錯念菟字」, 梅菟, 1921年8月28日
- 「三爺大吹」, 梅菟, 1921年8月31日
- 「答疑悶生」, 梅菟, 1921年9月2日
- 「官面洋味軍氣」, 梅菟, 1921年9月4日
- 「改良招租帖」, 梅菟, 1921年9月9日
- 「瘋大夫」, 梅菟, 1921年9月11日
- 「不够作姨父資格」, 梅菟, 1921年9月14日
- 「中秋節」, 梅菟, 1921年9月16日
- 「遊園現象」, 亦我, 1921年9月21日
- 「參觀沈香床記」, 友梅, 1921年9月24日
- 「汽路」, 梅菟, 1921年9月27日
- 「吃死鬼」, 梅菟, 1921年9月29日
- 「何必死吃死鬼」, 梅菟, 1921年10月1日

現在まで行った新聞の調査は主に以上の4紙である。資料収集にあたっては、特に初期の調査では主に小説を対象としたため、「演説」や「コラム」などの記事に見落としがある可能性が高い。また、蔡友梅の経歴のところでも記したが、この4紙以外にも、『小公報』『公益報』や『衛生報』等の編集に携わっているため、これらの新聞の調査を行う必要がある。引き続き作品収集を続けていくが、今後はこれまで集めた作品から北京語の語彙を抽出、解釈する作業に力点を移していく予定である。

【註】

- (1) 「『清末民初小说书系』收入上述小说家值得收录的作品17篇，其中12篇为蔡友梅的作品，占到总数的70%以上。民初的小说读者对蔡友梅也有很高的评价。」（雷晓彤，『近代北京的满族小说家蔡友梅』，《滿族研究》，2005年4期）
- (2) 「蔡友梅早年随父在山东任所，坐过馆。1907年回北京办『进化报』，任该报社总务之职，未几报社倒闭。到归绥作幕僚二—三年，辛亥政变后到豫、鄂、赣等省办公债，1916年前后回北京在『小公報』作记者，1919年到1922年在『益世報』作记者。」（白维国，「『小額』探索」，太田辰夫、竹内誠編，『小額 社會小説』（1992）に収録）、雷晓彤，「近代北京的满族小说家蔡友梅」；「他出身于清末北京的一个旗人官吏之家，具体生年不详，…我们可以推测蔡友梅约在一九二零年前后离开人世。」
- (3) 『新編増補清末民初小説目録』，「新鮮滋味、損公（蔡友梅），京話日報社，民国初年」
- (4) 『褲緞眼』，損公，『清末民初小说书系，警世卷』P515
- (5) 『益世報』は、天津版と北京版があり、北京版は1916年2月8日に創刊されているが、中华全国图书馆文献缩微中心の『益世報』のマイクロフィルムは、1917年1月28日からしか残っていない。「『益世報』，社址初在南柳巷，后移玉皇阁。社长杜之轩，前后编辑子龙、藩云集、景耀月、张翰如。先为天主教机关，后改隶耶稣教会之下，与天津『益世報』为姊妹报。文言大报，日出两大张。」（『北京报纸小史』P410-411）
- (6) 影印短篇社会小説『小額』（一），波多野太郎編，横浜市立大学紀要，1968年第186号
- (7) 「記者今年四十九，接著世俗論，有個慶九之說…」（『餘墨』「生日」，梅蒐，1921（民国10）年4月7日，『北京益世報』）
- (8) 「记者办『进化报』时，登过一段小額小说，内容系旗人小額专放旗帐，倚势打人，后来小額改恶从善，也是一段实事。」（『曹二更』，損公，『清末民初小说书系，警世卷』P672）
- (9) 『高明遠』は1917年1月28日から連載された。
- (10) 「先生諱繩格，字省吾，蔡氏。隸漢軍旗籍，為有清世族。其先人以遊擊將軍率砲營從袁甲三督帥洪楊，戰歿壽州，清廷卹以輕車都尉世職，為先生長兄綬臣襲，後以參將官魯省，即報界聞人蔡友梅之父也。…其居在城北，去柏林寺半里，地名石頭橋。」（『燕市貨声』「蔡省吾先生事略」：『中国風土文献匯編』所収）
- (11) 「山東隨行」の時期に関する蔡友梅の記述には、「記者前二十年，在山東曹州府隨任時，聽說該處父老講究…」（『益世餘譚』「戲劇關係」，梅蒐，1920（民国9）年6月25日，『北京益世報』）と「三十年前，記者在山東隨任，彼時范縣，出了一個案子…」（『益世餘譚』「不夠朋友」，梅蒐，1920（民国9）年8月6日，『北京益世報』）と、二種類あるが、實事小説『八戒常』（一）（1918（民国7）年9月24日，『北京益世報』）には、「…記者在山東官場混過兩天，充過放賑的委員（我沒搵過賑錢），這宗情形我是親眼見過的，所以山東臨著黃河近的，各縣十家兒，倒有八家兒有船，不差什麼也都通點水性。這些個事情且不提，…」という記述があり、山東で任官した年月日が書かれていないので不確定であるが、20年前というのは、この自分が任官した時のことではないかと考察する。従って、父に隨行したのは、18歳のころではないと思われる。
- (12) 「記者十六歲應府考時，在舉場西門會一遇之。」（『益世餘譚』「李瘋第二」，梅蒐，1920（民国9）年3月16日，『北京益世報』。「后来记者于十六岁学医，二十三岁那年北京又闹霍乱，时常有人请记者扎针。」（『曹二更』，損公，『清末民初小说书系，警世卷』P658）、『褲緞眼』，損公，「无非是臭監生，跟破烂秀才（跟我一个样）」（『清末民初小说书系，警世卷』P520）
- (13) 「庚子之先，記者在某營充當文案委員，每月津貼四兩（合不到六塊錢）。」（『益世餘譚』「那就好了」，梅蒐，1920

- (民国9)年1月18日,『北京益世報第二張』、「清己亥年九月,記者正在大學堂肄業。有位外國教習,是位著名的天文大家。」(『益世餘譚』「五星聯珠」,梅菟,11月25日,『北京益世報』)
- 14) 「十五年前,我可搞過二年(教習),還當過一年校長,這點滋味兒,我總算嘗過。」(『益世餘譚』「教員唱落馬湖」,梅菟,1920(民國9)年10月29日,『北京益世報』)、「有任俊甫者,湖南岳州人氏,記者前充中學堂長時,最得之以之學生也。」(『益世餘譚』「著急害怕」,梅菟,1920(民國9)年7月7日,『北京益世報』)
- 15) 『北京報紙小史』P403-404
- 16) 警世小說『大興王』(二十),亦我,1920(民國9)年4月8日,『北京益世報』
- 17) 「十七年前,記者同趙時敏、關松石、樂綬卿諸君、在北新橋北、組織進化閱報社,白天閱報,每逢三六九日,晚間講演,諸君熱心公益,記者附諸翼尾。十餘年如一日,後因趙關兩君出京,樂君逝世,記者亦因公赴豫,經理無人,始行停辦。在光緒末葉,本社極為發達,一切經費,除由各熱心君子捐助外,其餘概由發起人担任。白天閱報統計約百十餘人,晚間聽講人數尤夠,准不時丟報,(白看報帶偷)閱報聽講時,均備有茶水,豆綠茶盅。每天總丟兩三個,不但此也,記者丟過一件斗篷,……」(『餘墨』「白瞧報帶偷」,梅菟,1921(民國10)年9月10日,『北京益世報』)、「曾記丁未年間,記者正辦進化報,有個世交某君,找上門來,一定讓我使他一百銀,其實我沒有使錢的必要,他再三的相強,我又買了兩箱便宜紙,使就使罷。轉過年來,報館因事停版。好些個損失,都由記者一人担負。」(警世小說『大興王』(二十),亦我,1920(民國9)年4月8日)
- 18) 「彼時這些個志士,雖有熱心,並沒有熱財,日久天長,經費竭蹶,各所先後停辦,(最後停辦的,就是進化閱報社,)」(『益世餘譚』「李蔭青傳民國」,梅菟,1920(民國9)年6月28日,『北京益世報』)
- 19) 『益世餘譚』「記田世光」,梅菟,1920(民國9)年3月24日,『北京益世報』
- 20) 『益世餘譚』〈樓子不小〉,梅菟,1920(民國9)年6月13日,『北京益世報』
- 21) 「提調、庶務、會計、文牘、稽查等等,要說外省各局所的內容,記者曾當過總辦,也當過提調,是全知道的。督辦、總會辦都是一個人兼,八處差使,簡直的照料不過來(有功夫,還打牌、喫花酒呢)。」(『二十世紀新現象』(第六回),損公,1913(民國2)年1月11日『順天時報』)、「記者前幾年在河南官場混過些時,當過一任某局的會辦。」(『孝子尋親記』(135回),退化,1914(民國3)年6月5日『順天時報』)、「頭幾年記者在山西……」(『孝子尋親記』(138回),退化,1914(民國3)年6月9日『順天時報』)
- 22) 「在歸綏待了三年,……我是時常的賞錢,每月好幾百,搞了二三年,回到北京,好,錢剩了沒有五十塊。比我差使不如的,人家回到京中,都置兩處小房兒,我如今會把房賣了,混到租房住,您說那裏講理去。」(實事小說『王翻譯』(二),亦我,1921(民國10)年6月22日,『北京益世報』)
- 23) 「弟君鄰、姪友梅均以醫行於世,蓋出於太夫人家傳也。由是家計日裕,一門穆穆雍雍,為六族共仰。」(『燕市貨聲』「蔡省吾先生事略」:『中國風土文獻匯編』所取)、演說「多兒多女多冤家」(蔡友梅,1917(民國6)年3月6日,『益世白話報』)
- 24) 「壬子年間,記者與錢愚儒、王淑淵二君,組織正俗振樂新劇社,聯合同志三十人,後因規模太大經費不足,中道而止,至今抱歉。雖然記者對於新劇,熱力仍未消滅,待時而發……」(『益世餘譚』「告奎星垣」,梅菟,1920(民國9)年6月12日,『北京益世報』)
- 25) 「(這宗賭局,民國元年,就有人辦過。記者在衛生報編輯時,於新聞中登載過兩次,警察注意,該局即無形解散。)」(『益世餘譚』「巡迴賭局民」,梅菟,1920(民國9)年4月20日,『北京益世報』)
- 26) 「記者在本報承乏編輯主任,敝社長是推心置腹,以誠相待……」(『演說』「去而復返」,蔡友梅,1917年3月11日,『益世白話報』)、「記者自担任餘墨一門,三年有零……」(『餘墨』「朝鮮人也叫橫」,梅菟,1921(民國10)年8月20日,『北京益世報』)
- 27) 「後來在各報擔任編輯,如今還擔任大西北日報編輯,並擔任本報餘墨、小說,及京話日報小說,每天是四五千字,不必說編,就說抄寫,也得幾小時功夫。」(『餘墨』「閱報館之難」,梅菟,1921(民國10)年4月5日,『北京益世報』)
- 28) 「記者住家在東直門南小街迤東,叫作東頌年胡同,門牌三十一號,距離小街兒很近。」(『益世餘譚』「汽車飛艇」,梅菟,1920(民國9)年2月8日,『北京益世報』)
- 29) 『大西北日報』は、張垣(今の張家口)で発行されていたようである。「昨據張垣友人來函,該處西北日報,出版將近一年。雖係白話小報(現已改組大報,不日開幕)宗旨正大,議論和平。據經理宋縉璞,人極熱心,該報在本埠,很有價值。」(『益世餘譚』「張垣警察」,梅菟,1920(民國9)年4月10日,『北京益世報』)

③〇 註(8)参照。

【参考文献】

- 波多野太郎著，評論晚清短篇社会小説「小額」，『景印短篇社会小説 小額』所収，横浜市立大学紀要，1968年第186号。
- 太田辰夫、竹内誠編，『小額 社会小説』，汲古書院，1992. 8
- 樽本輝雄編，『新編増補清末民初小説目録』，齊魯書社，2002. 3
- 刘永文編，『晚清小説目録』，上海古籍出版社，2008.11
- 『中国早期白话报汇编』（40册），李伟、陈湛绮編輯，全国图书馆文献缩微复制中心，2009. 1.
- 『京話日報』（12册），全国图书馆文献缩微复制中心，2006. 3
- 『顺天时报』，中华全国图书馆文献缩微中心制作マイクロフィルム，1986
- 『顺天时报』，日本国立国会図書館所蔵版制作マイクロフィルム
- 『益世報』，中华全国图书馆文献缩微中心制作マイクロフィルム，1987
- 李伟、陈湛绮編輯，『中国早期白话报汇编』，全国图书馆文献缩微复制中心，2009
- 白维国，「『小額』探索」，太田辰夫、竹内誠 編『小額』所収，第66-68頁，汲古書院1992. 8
- 管翼賢，『北京报纸小史』，『新闻学集成』第六輯，中华新闻学院民国三十二年版
- 『筆記小説大觀』九編九冊，新興書局，1975
- 『筆記小説大觀』九編十冊，新興書局，1975
- 于润琦主编，『清末民初小说书系·警世卷』，中国文联出版社，1997
- 于润琦主编，『清末民初小说书系·社会卷』，中国文联出版社，1997
- 雷晓彤，「近代北京的满族小说家蔡友梅」，『满族研究』，2005. 4 期
- 刘大先，「清末民初京旗小说引论」，『民族文学研究』，2007. 2 期
- 刘大先，「清末民初北京报纸与京旗小说的格局」，『满族研究』，2008. 2 期
- 刘大先，「观念的潜流-清末民初京旗小说与老舍」，『满族研究』，2009.11期
- 孙玉石/张菊玲，「『正红旗下』悲剧心理探寻」，『北京大学学报：哲社版』，1999年 5 期
- 姜亚沙等編，『中国风土文献汇编（全十册）』，全国图书馆文献缩微复制中心，2006